

TUBE(チューブ)

2004(平成16)年11月14日鑑賞(心齋橋パラダイスクエア)



監督・脚本：ペク・ウナク／出演＝キム・ソクン／パク・サンミン／ペ・ドゥナ／ソン・ビョンホ／チョン・ジュン／キ・ジュボン／イム・ヒョンシク／クォン・オジュン（松竹配給／2003年韓国映画／116分）

……網の目のようにはりめぐらされたソウルの地下鉄の乗っ取りとはよく考えられたテーマ。昔の日本映画『新幹線大爆破』と全く同じ機軸だが、韓国版はテロによる目的達成なるかという本来のテーマの他、面白いキャラの女スリとの恋愛模様がオシャレ。スピード感あふれるアクションとともに十分に楽しもう……。

ソウルというまち

私は韓国旅行に過去4回行ったことがある。釜山に1回、済州島に1回、そしてソウルに2回。いずれも親しい友人たち数名とのプライベートな旅行で、私が最近ハマっている(?)いわゆるツアー旅行ではないもの。

したがって、その目的はゴルフと食事そして……? このため、あまり本格的な観光はしていないものの、ソウルのまちについてはいくつかの私なりの印象をもっている。

その第1は、何とんでもなく車の渋滞で、これはひどいもの。通勤時間帯のことはよくわからないが、夕方のラッシュ時の渋滞は数回体験したが、ほとんどイヤになってくるもの。

第2は、食事のおいしさ。これは当然によって違うだろうが、私はソウルの韓国料理は大スキ……。

第3は、ソウルのまちの美しさと楽しさ。近代的なビルやホテルの美しさにはびっくりする一方、雑然とした繁華街も楽しくて魅力的。

そして第4は、整備された地下鉄の構内や列車の美しさ。これにはビックリさせられたものだ。

韓国をめぐる最近の政治情勢

韓国の現在の大統領は盧武鉉ノムヒョン大統領。彼は2002年12月に李会昌イ・フエチャンを敗って大統領に選出された50代のいわゆる「民主化世代」の大統領。そして2004年3月、史上初の大統領弾劾訴追決議を受けたが、2004年5月、憲法裁判所は弾劾訴追を棄却した。

また盧武鉉が大統領に選出された後2004年4月に行われた総選挙では、①与党ウリ党の大躍進とハンナラ党の敗退、②新人議員の大量登場（約7割が世代交代）という劇的な変化がおこった。

「開かれたウリ党」の主導による反日法案「親日真相糾明特別法」の成立（2004年3月）とその施行（9月23日）は盧武鉉大統領の目指す政策の1つ。

首都移転法案は憲法違反！

そして首都ソウルの移転も盧武鉉大統領の掲げた政策の1つ。韓国の首都移転を定めた、「新行政首都建設特別法」が成立したのは2003年12月。その後、新しい首都をどこに定めるのかの議論が噴出し、結局ソウルから120キロほど南の中部、忠清南道燕岐郡・公州市一帯に広がる農村地域に決定した。ところが新行政首都建設特別法案による首都移転計画について、ソウル市議や市民団体が「国民投票なしの首都移転は無効」と提訴した。

そしてこれについて韓国の憲法裁判所は、10月21日憲法違反の判断を下すにたった（9人中8人が違憲と判示）。こんな昨今の韓国のそしてソウルの動きをきちんと勉強してこの映画を観れば、一層興味が増すというものだ。

ソウルで注目のまちづくり—清溪川復元事業

車社会の到来と都市の膨張という流れの中で、東京や大阪では川の上に高速道路が建設され、川には蓋がかぶせられ、暗渠あんきょとされていった。これによって川を中心とした美しい都市の風景が失われるとともに、ヒートアイランド現象が拡大

していったことは周知の事実。

そんな中、韓国ソウルのまちづくり——都市改造プロジェクトとして注目されているのが清溪川チョンゲチョン復元事業。これは、1千万都市の中で全長6キロにわたってコンクリートの道路を引きはがし、その下を流れていた河川を復活させるという壮大な事業で、2003年7月にスタートしたものの、その完成予定は2005年の秋というからこの事業はすごい急ピッチで進んでいる。

この計画の旗振り役となった李明博イ・ミョンバクソウル市長はハンナラ党だが、この功績(?)によって、次期大統領の有力候補の1人とも……。

因縁の対決は元工作員とはぐれ刑事(?)

この映画で「対決」するのは、国家機密諜報機関の元工作員のギテク(パク・サンミン)と政府要人を警護していた恋人がギテクの銃弾によって殺され、その復讐に執念を燃やすチャン刑事(キム・ソクン)。ギテクを追跡したチャンは一度はギテクを追いつめたが、逆に返り討ち(?)にあってしまい、左手の小指を切断されるという屈辱に。

そのためチャンは今もソウル市警の現職の刑事ながら組織としての仕事には情熱を燃やすことができない。だからチャンは、上司の班長(イム・ヒョンシク)の言うことなどもどく吹く風と聞き流し、一匹狼的にギテクの追及に執念を燃やすはぐれ刑事……。

そんな時、金浦キンポ国際空港で銃撃戦が発生し、政府の要人が襲われた。そこに1人駆けつけたチャンは一味の1人を倒したが、その時、その襲撃犯のリーダーと目を合わせた。すると何とそれは……？

面白いキャラの女スリ

この映画を良くも悪くも特徴づけているのが、チャーミングな女スリのインギョン(ペ・ドゥナ)の存在。インギョンがチャンに想いを寄せる動機は明確ではないが、映画はそこらあたりを実にうまく説明している。またギテクが国家に裏切られた過去やチャンが恋人と楽しく暮らしていた過去も実にうまく表現・説明している。そんなインギョンは少しずつチャンの心の中に入りこんでいき、地下

鉄乗っ取りという大事件の当事者(?)となり、チャンとともに最後まで……。そして遂に最終的には……？

全編通じて同じような服装で登場するし、殴られて血だらけになったりするので、あまりその美しさを見せてくれないのは残念だが、目のクリクリとしたかなりの美人。これからの活躍が楽しみな女優だ……？

先輩は『新幹線大爆破』

この映画は、地下鉄を乗っ取ることによって、「ある人物」に対して「ある要求」をつきつけていくというテロの物語だが、これとよく似た設定の映画が昔日本にもあった。

それは『新幹線大爆破』(75年)。高倉健や山本圭らが出演した実に迫力ある映画で、どこで観たのかまでは覚えていないが、手に汗を握りながら観たことを今でもよく覚えている日本映画の傑作。

この手のテロを題材として映画を作る場合、何よりも重要なのはスピード感！何らかの形で最後に行き着くところが決まっているはずだから、それまでに何らかの解決をしなければならない。その時間的緊張感がこの手の映画のスリルとサスペンスを生み出す要因なのだ。

陰の主役は統制室室長？

ソウルの地下鉄は東京と同じく網の目のように張りめぐらされているが、パンフレットによると高低差、直角カーブなどその整備状況はあまり良くないらしい。また、在来線の混雑回避のためサポート路線を何本も開通させたが、これは深度が深い「乗りかえ通路は奈落の底から、はるか地上付近に浮いている古いホームに向かって伸びた」とのこと。

こんなソウルの地下鉄を集中管理しているのが地下鉄統制室であり、その室長を演ずるのはソン・ピョンホ。

中央の大型パネルに表示される地下鉄の各列車の動きを見ながら各担当者からの報告を聞き、テキパキと適切な指示を与えていく彼の姿は平常時でもカッコいいものだが、「地下鉄乗っ取り」という非常事態の中、この室長の活躍ぶりはす

ごい。

とりわけ後半に至り、政府のおエラ方(?)が乗り出してきて、事態収拾のためケツタイな処理方針を示すと室長は断固それを拒否。

その結果彼は直ちに室長を解任され、別のカイライ人間がそれにとって代わることになるが……。

しかしそれでも正義は勝つ！ この統制室室長の指揮ぶりはこの映画の重要な観どころの1つであり、陰の主役ともいえる存在だ。

それにしてもチャン刑事はタフ……？

この映画ではチャン刑事がギテクと対決する機会は数回発生する。そしてギテクも元工作員らしく(?)、正々堂々とチャン刑事に立ち向かってくる。ところが……？

どうみても格闘技にかけてはチャン刑事よりギテクの方が実力が上。何回かかっていっても勝てず、返り討ち(?)にあってばかり。しかしチャン刑事はタフ。ものすごくタフ。やられてもやられてもギテクを追いかけて立ち向かっていく執念だけはたいしたもの。

地下鉄の列車内の対決で敗れ、ついにピストルで撃たれて列車の外へ転落させられた時は、さすがにこれは一体どうなるのだろうと思ったが……？

そんなチャン刑事を救ったのは女スリのインギョンからもらった1枚のカード。胸ポケットに入れていた1枚のカードがギテクの弾丸をストップさせたわけだ。九死に一生(?)を得たチャン刑事は元気を取り戻し、再びギテクとの対決に……。そして最後には……？

2004(平成16)年11月15日記